

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3090100136
法人名	有限会社 西日本マインド
事業所名	グループホームこのみ
訪問調査日	平成 21年 10月 13日
評価確定日	平成 21年 10月 29日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3090100136		
法人名	有限会社 西日本マインド		
事業所名	グループホームこのみ		
所在地	和歌山市布引935-1 (電話)073-445-4513		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成21年10月29日

【情報提供票より】(21年 9月 27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年 5月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 9人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 階 ~ 2階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1166 円		

(4)利用者の概要(9, 27)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	2	名	要介護4	4	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	82.5 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上山外科病院 滝本歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に位置する建物の2階部分をグループホームの生活の場としており、1階部分には小規模多機能型居宅介護のサービスが併設されている。玄関横には菜園があり、入居者が丹誠込めて野菜を育て収穫をする姿を、地域住民も助言を交えながら見守っている。年2回開かれる家族会には、いつも大勢の家族が参加し、事業所の大切なイベントの1つとなっている。思いに寄り添うケアに重点が置かれており、入居者が笑顔で自分らしく自由な日々を過ごすことができるような支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての取り組みである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めての外部評価であり、これを今までの振り返りと更なるステップアップとして活用できるように全職員各自が自己評価に取り組んだ。実施後ケアの仕方が変化した職員も見られ、研修の重要性も認識できた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民代表、家族、職員と、時々の入居者の参加で6ヶ月に1回開かれている。メンバーには行政との関わりを持つためにも、市の担当者や地域包括支援センターの職員の参加が望ましいが、実現はしていない。事業所でのサービス向上や地域の人に認知症をもっと理解してもらおう手だてに活用できる討議はあまりできおらず、内容は主に報告が中心となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	週1回以上来訪している家族が多いので、その時に個々の入居者の状況を報告したり意見を伺っている。家族会は年2回開かれ、事業所の報告や家族の意見を聞く時間も設けられ、各家族に日頃の入居者の様子を撮影したDVDを配ったり、時間外の面会にも対応する等運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初は地域住民の認知症に対する誤った認識も見られたが、散歩の途中で地域の人と会話したり、近所での買い物など、実際に認知症の人とかかわってもらった中で、徐々に地域の中で理解され始めた。今では地域の人が入居者を気遣ってくれる関係となっている。地元住民のボランティアも積極的に受け入れるなど、地域の人々と交流することに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念は作成されているが、法人としての理念であり事業所独自で作上げたものではないので、職員の意識には理念として浸透しにくいところもある。		法人の理念を基に家族、入居者に必要とされる地域密着型サービスについて話し合い、自分達が納得出来ることばで、更なるケアの充実を目指した事業所独自の理念を作り上げることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ダイニングの壁に理念が掲げられており、確認できるように朝のミーティングには皆で唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初は地域の住民に認知症の正しい理解がされていないところもみられたため地域に溶け込むよう努めた。入居者が散歩の途中や買い物先などで出会った人たちと会話を買わずなかで徐々に理解されてきた。地域住民のボランティアや近くの幼稚園児の訪問など、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価であり、これを職員各自の業務の振り返りや更なるケアへのステップアップとなるよう一人ひとり自己評価に取り組んだ。そのことにより改めて研修の必要性が認識され、また職員によってはケアの仕方が変わった人もいた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6ヶ月に1度開催されている。メンバーは地域住民代表、家族、職員で、時々入居者の参加もあるが、行政からの参加はない。会議内容は主に報告で終わっており、サービス向上に活かすまでの内容には至っていない。		地域の人に認知症を理解してもらおう手だてなど運営推進会議での意見をサービス向上に活かす議題が必要かと思われる。また行政に事業所の現実をわかってもらうためにも、市の担当者や地域包括支援センターの職員の参加が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員とは日頃より事業所の考え方や実情を伝えるなど気軽に相談できる関係が築かれているが、和歌山市の介護保険課とは通り一遍の報告ですまされるなど、行き来する関係とは言い難い。		市の担当者とは行政の取り組みを知る上でも、また事業所の現実や取り組みを理解してもらうためにも連携を図り、共にサービスの質の向上に取り組むよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全入居者の殆どの家族が週1回以上は訪問しており、その都度管理者より個々の暮らしぶりなど報告を受けている。金銭管理は月1回の手紙の中で領収書のコピーを添付し、職員異動も写真をつけてそれぞれ報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情等は個々の訪問時に出来るだけ話しやすい状況に配慮しながら意見を伺っている。家族や入居者の楽しみとなっている年2回の家族会はレクリエーションを中心とした会ではあるが、事業所の報告や家族の意見を聞く時間も設けられ、それらを運営に反映させるよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者のダメージを防ぐため、新しく入る職員と異動または退職する職員が半月程は一緒に行動し、新しい職員が自然に入居者となじみの関係を持てるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に職員が積極的に参加出来るよう勤務扱いとし、費用も負担されている。参加者は伝達研修をして情報の共有化を図っている。また個人で参加する研修についても同じ扱いで受講できるよう配慮され、研修を受ける機会の確保に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着型サービスケアネット和歌山(旧グループホーム連絡会)」に加入し研鑽を重ねている。勉強会や相互研修を通じて当事業所のサービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に自宅を訪問して聞き取った本人の詳しい情報をもとに、工夫して対応している。慣れるまでは職員がマンツーマンで寄り添う中で、他の入居者の声掛けなどから馴染みの関係が築かれてゆくよう支援している。入居当初は入居者の不安を軽減するため家族に頻繁に来訪してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりの表情を大切に、しっかりと話しを聞く中で、気持ちの共有に努めている。料理の仕方を教わったり事業所内の畑で作る野菜と一緒に選びながら本人から学んだり支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家が潰れたかもしれないと心配する入居者には家を見に連れて行ったり、温泉に入りたい入居者には一緒に温泉に行くなど一人ひとりの希望や意向に沿う支援は行われているが、本人の意向を表す「つぶやき」を情報の共有化につなげ、検討材料とするための記録が不十分な面がみられる。		様々な場面で入居者自身の言葉が語る「つぶやき」により思いや意向が計られる。ちょっとした一言を汲み取り、一人ひとりの更なる思い、意向を把握し検討材料とできるように「センター方式」を利用するなど、記録の工夫が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアの中で寄り添いながら得た本人の思いや家族からの情報を基に職員一同の意見も取り入れながら介護計画を立てているが、その人らしさを十分引き出さず一般的な内容に留まっている。		グループホームでのその人らしい生活を支援し、日々のケアがより一層充実したものにできるような介護計画の作成を期待する。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居の1ヶ月後には必ず計画を見直している。本人の状態が変わらない場合は半年から1年に1回見直し、変化が見られるときは随時計画を変更している。モニタリングは毎月行い、家族や職員の情報や意見も踏まえた計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じ通院の支援を行い、同行介助しながら医師に日頃の様子を伝えている。1階に併設されている小規模多機能型居宅介護のサービスのなかで行われるレクリエーションにも参加できるように連携が取られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関が引き続き受診出来るよう支援をしている。本人の希望があれば往診にも来て貰い適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として主治医や家族の協力が得られれば終末期も看取る方針であることを入居時に家族に伝えている。今まで一人の入居者を最後まで看取った経験がある。終末期のあり方についてはその都度医師・家族・職員も交え常に話し合いを持ち方針を共有することが大切としている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の取り扱いについては、日々の記録シートは食堂の誰もが判る所にあるが、それ以外の書類は鍵のかかる場所に保管してある。誇りやプライバシーについては研修を重ね職員のレベルアップに努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が今までの生活の延長として過ごせるように、その人に寄り添いながらの支援をこころがけている。その時々に入居者がやりたいことを優先し希望にそって自分らしく生活してもらるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と職員と一緒に決めている。調理、味付け、配膳、片付けなど入居者は自分で出来ることを楽しそうに行っている。各自が自分の食器を使い職員も入居者と共にテーブルに着いて食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日自由な時間に入浴ができる。入浴をいやがる人にもタイミングを計りながら入浴が楽しめるよう工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内の畑には、入居者らが選んだ野菜の苗が植えられ、水やり、草抜き、収穫を楽しんでいる。日々の掃除、洗濯物のたたみ、ゴミ出し、調理など入居者それぞれのを活かした支援がなされている。各入居者が概ね2ヶ月に1度は外食に出掛けられるようにも支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、散歩、美容室に行くなど入居者ごとの希望に添った外出支援が日々行われている。外出嫌いの入居者からは出たくないのではなく、出られないと言われ無理に勤めることなく見守っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は研修を重ね、鍵を掛けることの弊害を理解しており、日中は玄関に鍵はかけず職員が注意深く見守っている。2階のグループホームから下に降りるエレベーターは自由に乗り降りができるが、入居者は必ず玄関奥の事務所に立ち寄り、直接外に出たことはない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者も参加しての年2回の消防との火災訓練を行っている。参加出来なかった職員にも伝達研修しているが、地域住民の参加までには至っておらず、また備蓄の確保もない。		住宅街に位置する事業所であるため地域住民との協力体制は必要と思われる。今後は地域住民も参加しての災害訓練を期待する。更に備蓄の確保も早急に望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事は毎日一人ひとり記録され職員一同その情報を把握している。食事を残した人には時間が経ってから勧めたり、水分量の少ない人には夜間の巡回のおりに補給をしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな明るい窓からは近くの山々と近所の家々の屋根が見え日々景色の違いが感じ取られる風景が広がっている。入居者は夜も居間で自由にテレビを見たりして、くつろぎながら時を過ごすことができている。各居室の入り口には各自が持参した「のれん」が吊るされ、手作りの表札も掛けられてあり、家の延長の様な趣である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に備え付けのベッド以外は全て私物で、なるべく本人が使い慣れた物を使用できるようにしている。ベッドを使っている入居者、フロアマットを敷き詰め布団を直に敷く入居者など、名々が使い勝手のよい居室となっている。		